



時春霖総経理

From Suzhou

ものづくりの“心”を鍛え、さらなる品質向上を 従業員教育に“日本方式”を導入 蘇州城時実業有限公司

中国企業でありながら、日本の製造業の成功を手本に、金型業界で躍進を続けている蘇州城時実業有限公司。「機械も人も気持ちよく仕事ができること」をモットーに、従業員教育に力を注ぐ時春霖総経理に、同社の経営方針などについて伺った。

一つ一つの金型製作に心をこめて

二〇〇三年に設立した城時実業有限公司が当初、中心業務としていたのは「組み立て」と「成形」だった。

ところが、下請けのローカル企業に発注していた「金型」が、納期・品質・アフターサービスにおいて満足のいくレベルを保てなかったことから、〇四年、自社内で金型部門を立ち上げることとなった。

以来、「こだわり」を持った製品づくりへの努力が実を結び、現在では「金型」が中心業務となっている。主力アイテムは

たとえばプロジェクト部品などプラスチックの精密製品。品質・コスト・納期のすべてにわたった顧客満足度をモットーとしている。

「精密な製品」に「精密な精神」

「精密な製品をつくるには、精密な精神を持たないといけません。物づくりの前に、まず人づくりです。技術教育以外の分野でも従業員に指導を行っています（時総経理）

時総経理がモデルにしたのは日本方式の管理手法である。時総経理によれば、一九六〇年代以降、物づくりの黄金時代を築いた日本の製造業の手法には見習うべき点が多いという。結果として、自社工場内だけでなく、ローカルの下請け企業に対しても、技術以外の教育、すなわち品質・サービス・対応における徹底した指導を実践することとなった。

工場内の寮も完備している。仕事場と生活場を一つにすることで、「学校」（給与

を得ながら学ぶことができる場）、「家庭」（従業員が互いに兄弟のように悩みや相談を打ち明けることができる場）、そして「軍隊」（上下関係や規律を重視し、正しく生活する事により、仕事の成果にもつながる）としての役割も果たすことができるといのが時総経理の考えだ。

「従業員にとっては辛いことかもしれない。しかし、実行可能なルールを自らに課し、だらしなさを払拭し一つ一つの課題をクリアするという経験が、生産性・品質の向上につながるのです。それは同時に、従業員にとっても賃金アップ・自己の成長につながると思っています。従業員には常に学ぶ姿勢を示して、そして豊かな生活をするために一緒に頑張ってもらい。そのための厳しさですね」（時総経理）

物づくりの“基本”は日本を手本に

設立当初は一〇数名に過ぎなかった従業員数は現在、一四〇名以上を数える。生産規模も拡大し、今年四月、手狭となった旧工場をあとにし、現在の工場へと移転した。

現在、顧客の九割を占めるのが日系企業だ（残り一割が欧米企業）。「今後は、さらにレベルの高い新しい製品を求めてい



金型製作の現場。「日本スタンダード」を追求した品質管理が定着

きたい。そのためにも、ハイテク技術の導入はもとより、日系企業の「ものづくり」におけるノウハウや技術の吸収に今後とも努めていきたい。また、新しい業務の開拓も積極的に進めていく（時総経理）

今後、金型業界ではコスト面などにおいて競争が激化していくことが予想される。「日本水準」のマネジメントを武器に業績を伸ばさせてきた同社は今後どのような事業展望を描いているのだろうか。

「一つ一つの金型をつくるにも基本的なことが守られていないと絶対にいいものはいけません。『こだわり』をもった製品づくりを行っていききたい」（時総経理）

（ウエネバー蘇州・無錫／佐藤正典）

DATA

蘇州城時実業有限公司
江蘇省蘇州市相城区渭塘鎮玉盤北路盛湖工業園
TEL: (0512) 6590-5577 FAX: (0512) 6540-2501
MP: 13771741444 (時総経理)